

ふるさと

—ニュータウンにおける高齢者住宅街区の提案—

末村 巴

[指導教員：武庫川女子大学教授 三好 庸隆]

キーワード：高齢者，ニュータウン，住宅街区，施設，ふるさと

1. 設計の背景

現在，日本は急激な高齢化を迎えている。その中で様々な高齢者向けの施設や住宅が作られているがまだまだ追いついていない状態であり，安心して楽しく過ごす場が足りていないと感じる。慣れ親しんだ土地で安心して過ごしていくにはまだまだ身体面や日常生活に不安があるのではないだろうか。

その中でも多くのニュータウンにおいて一時期に大量の入居がなされたこと，世帯分離による若年層の地区外転出，少子化，住宅や施設の老朽化，ニーズの食い違いによるニュータウンの人口減少などほかの街に比べても著しい高齢化が問題となっている。

また，従来の日本の住宅は平屋や低層の建物が多し。しかしそれに比べ，高齢者向けの施設や有料老人ホームはマンションタイプのものが多い。住宅の前に並ぶ植木鉢，水やりに出ると始まる井戸端会議，このような環境が日本の本来の姿なのではないのだろうか。

そこで，その様な姿を取り戻せるような新しい形の高齢者向けの住宅街区（施設）を比較的新しいニュータウンである「彩都」において先行的に整備することを提案する。

2. 設計の目的

2-1. 安心の生活

ニュータウンに高齢者向け住宅街区を造ることにより，慣れ親しんだ土地で将来を見据えた安心の生活を送る場をつくる。

2-2. 明るい街

サポート体制をしっかりと整えることで高齢者の方，またその家族の不安を解消いきいきとした明るい街にする。

2-3. 交流の拠点

食堂やカフェ，広場を街に開放することにより“施設”という閉ざされたような場ではなく多世代との交流の場をつくる。

3. 類似事例

株式会社コミュニティネットのサービス付き高齢者向け住宅「ゆいま〜る那須」（栃木）

自然を多く取り入れた平屋建てを中心としプライバシーもしっかり保たれた戸建て風の住宅(図1)。

従来の高齢者住宅のなりがちな「サービスを受ける側」と「サービスを提供する側」という関係ではなく，同じ立場に立ってハウスをよくしていくという考え方で暮らしを楽しみながらも生涯現役でいきいきとはたらくこともできる。

4. 設計の概要

4-1. 計画地について

大阪府の箕面市と茨木市にまたがる彩都を計画地とする。彩都は北大阪の丘陵地で，平成16年に街びらきをしたニュータウンである。

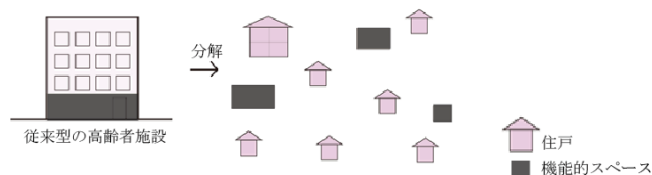
	箕面市	茨木市	合計
世帯数	1,405	2,500	3,905
人口	3,925	7,640	11,565
人口/世帯	2.79	3.06	2.96

(平成 25 年 11 月現在, saito.TV より引用)

4-2. 施設概要

高齢化や若者の流出など，さまざまな問題を抱えるニュータウン。そのようにならない為に新しくできた彩都に高齢者向けの住宅街区を提案する。

マンションタイプの施設を解体し，機能は残しながらも今までの生活と変わらない生活を送れる住宅をつくる。



住戸にはそれぞれのキッチンや浴室，居室を備える。共有スペースとして食堂，カフェ，緑を配置する。また，365日体制のサポート，緊急時の呼び出しブザー，連携の病院を備えることで不安を解消する。

街に向けた開放スペースを備えることにより街との交流をはかる。

参考文献

- 1) 新建築 第87巻13号，2012年8月1日発行集合住宅特集
- 2) saito.TV, <http://www.saito.tv/index.html>
- 3) 千里ニュータウン, <http://senri50.com/e50889.html>
- 4) 堺市HP, <http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/senbokusaisei/index.html>
- 5) ゆいま〜る那須, <http://c-net.jp/nasuinfo>



図1 ゆいま〜る那須

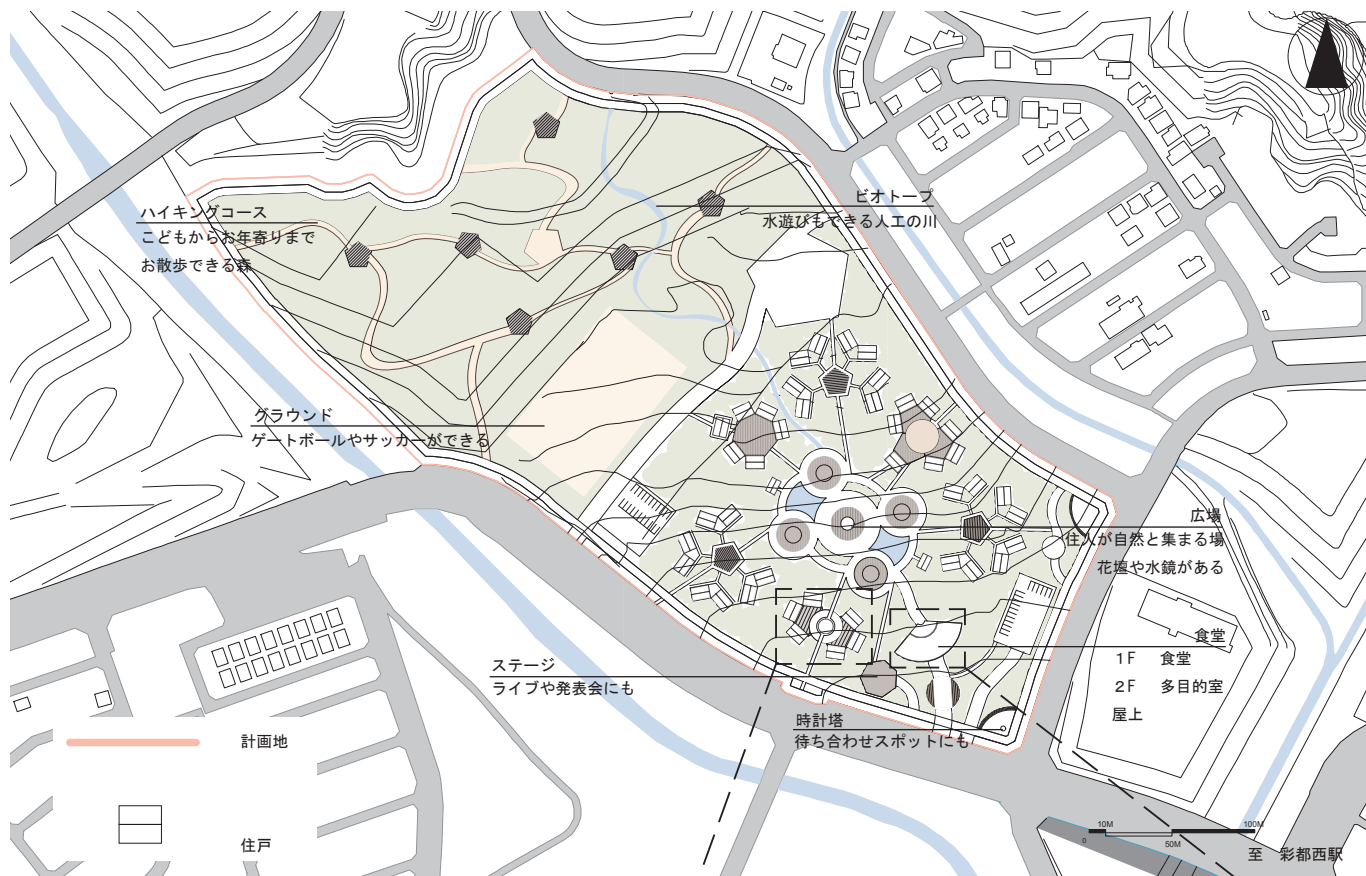


図2 配置図

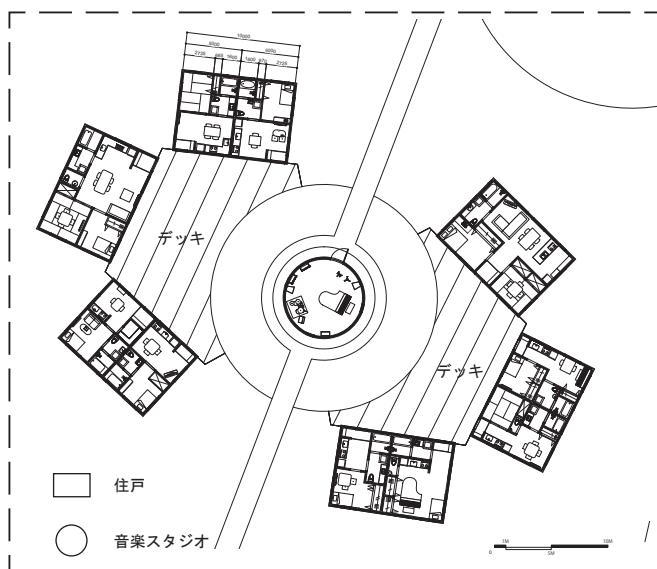


図3 平面図

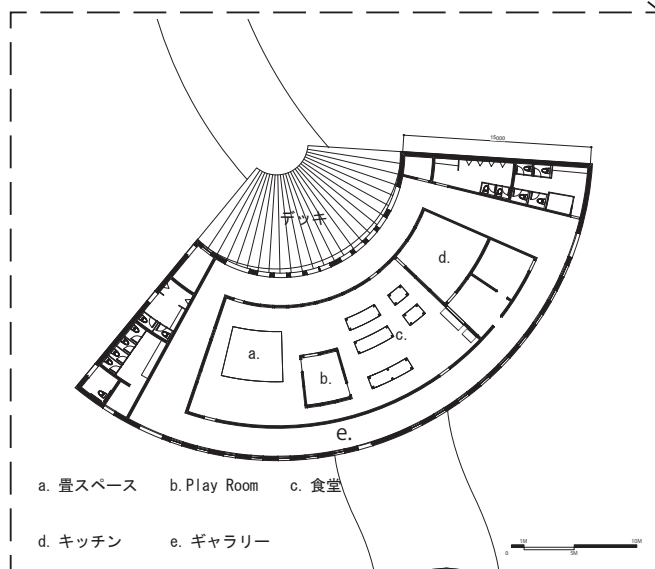


図4 食堂平面図



図5 住戸立面図

卒業論文要旨